

## 触媒学会改革検証委員会アンケート集計報告

2015年3月10日

触媒学会改革検証委員会

### 1. アンケート集計結果の概要

#### (1) アンケート結果の妥当性

アンケートの回答者数は、アンケート対象の会員全体の約5分の1であった。年代別、所属別の回答者の分布は、会員全体の分布と概ね一致しており、本結果は会員全体の意見をほぼ反映していると考えられる。

#### (2) 秋の B 講演廃止に関して

回答者の約9割が「現状問題なし、あるいはやむを得ない」との意見であり、現状に肯定的であった。一方、B 講演を含む触媒討論会の活性化について、多くの建設的なご意見をいただいた。

#### (3) 会員 WEB サービスと触媒誌の電子化について

現状を肯定する意見の一方、「電子化されて触媒誌を読まなくなった」という回答が全体の3分の1を占めた。触媒 On The Web と会員 WEB サービスについては、多くの要望が寄せられ、より使いやすいシステムを望む意見が多かった。会員マイページの検索機能活用については、肯定意見と否定意見が半々であった。

## 2. アンケート集計結果の説明

### 2.1 アンケート結果の妥当性

アンケートは、2014年11月4日から12月20日までweb上で受け付け、474件の回答が寄せられた。回答者数は、アンケート対象の会員計2,262名の21%に相当する。

回答者の年代別では、20代:44名(回答者総数に占める割合9%)、30代:131名(28%)、40代:140名(30%)、50代:103名(22%)、60代以上:56名(12%)であった。図1に回答者の年齢分布との正会員(2013年度)の年齢分布を比較した。20代と60代以上で回答割合が若干少ないが、両者の傾向はほぼ一致している。回答者の所属別では、産:197名(42%)、官:34名(7%)、学:222名(47%)、その他:21名(4%)であり、これも会員の分布とほぼ同じである。なお、正会員の年齢分布には学生が含まれていないので、学生からの回答は少ないものと思われる。

以上のように、年齢および所属とも、会員全体の分布と概ね一致していることから、今回のアンケート結果は、特定の属性に偏ることなく、幅広い会員の意見を反映していると考えられる。

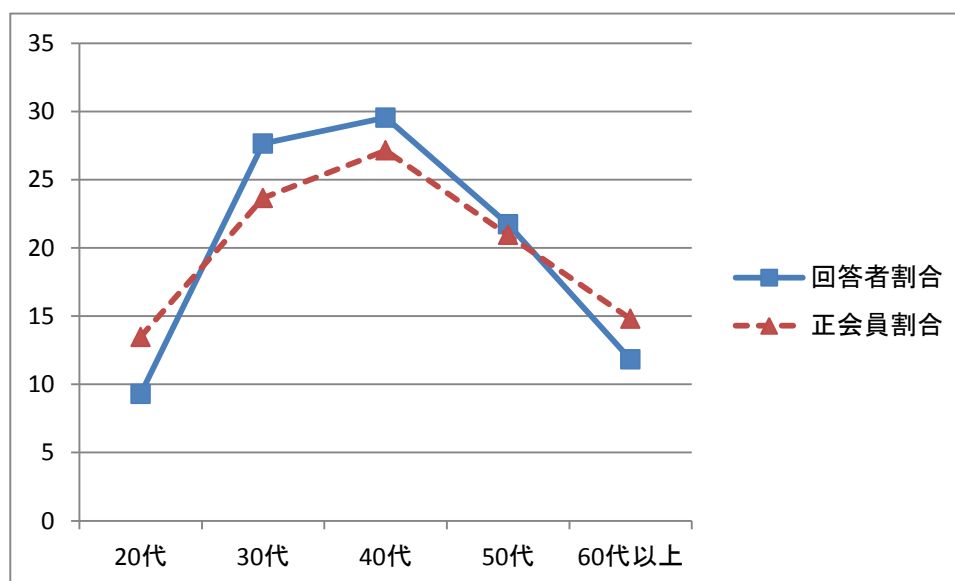


図1 回答者と正会員の年齢分布比較(縦軸は%)

## 2. 2 秋の B 講演廃止に関して

「Q4 秋の B 講演廃止に関して」は復活を望む意見が 1 割弱であり、88.2%が現状問題なしあるいは現状やむを得ないとの意見であった(図2)。ただし、「Q5 B 講演への新たな申込希望」は絶対数で 98 名あり、現状肯定派にも含まれていた(資料 Q5)。潜在的な B 講演登壇希望者は相当数いるようである。特に、20 代の 3 割が新規申込を希望していたことは、次世代の研究者のために B 講演ないしはそれに相当する活躍の場を再考する必要性を示唆している。自由記述には多くの建設的な意見を頂いた。具体的な提案、討論会参加者の意識の問題の指摘、またネガティブな批判も含まれる(生の意見は事務局に保存)。学会としてこれらの意見を真摯に受け止め、討論会の活性化のために活用したい。

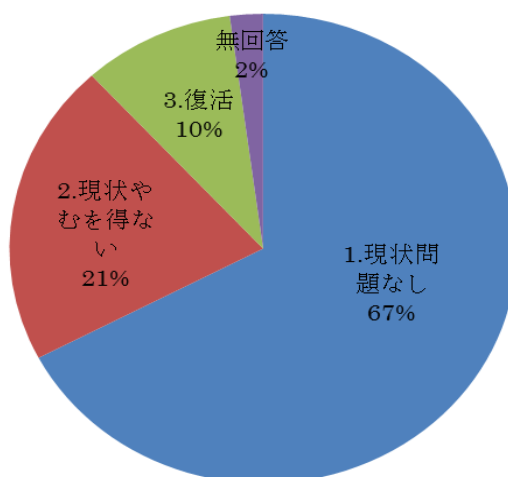


図2 秋の B 講演廃止に関して(Q4)

### [設問別詳細]

Q4) 秋の B 講演廃止に関して、会員の皆様のご意見をお聞かせください。

回答結果は多い順に、「現状(B 講演廃止のまま)で問題ない」:319 名(回答総数 474 に占める割合:67%)、「現状(B 講演廃止のまま)でやむを得ない」:99 名(21%)、「秋の B 講演は復活させるべきである」:46 名(10%)、「その他」:10 名(2%)であった。

全回答者の 67%が「現状(B 講演廃止のまま)で問題ない」と回答したが、これを属性別に解析すると、年齢別では 30 代(18%)と 40 代(19%)、所属別では産(31%)、会員年数別では 20 年以上(20%)が、全体よりもやや高い傾向を示した。

また、触媒学会の会員になってからの年数(Q3)で構成比を比較したところ、5-10 年未満・1-5 未満・1 年未満ごとの会員では全体の約 8 割を「現状(B 講演廃止のまま)で問題ない」が占めているのに対し、10-20 年未満・20 年以上では全体の約 4 割が「やむを得ない」を選択もしくは「復活」を希望している。「復活」を希望する割合は、10-20 年未満で 14%、20 年以上で 12% であった。

Q5) 仮に B 講演の機会が年 2 回になったら、あなたご自身で B 講演に新たに申し込みたい、あるいは申込みを増やしたいと思いませんか。

回答結果は多い順に、「No」:358 名(回答総数 474 に占める割合:75%)、「Yes」:98 名(21%)、「無回答」:18 名(4%)、であった。(図3)

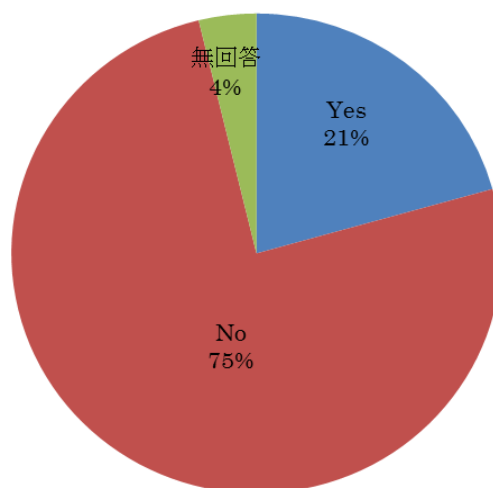


図3 B 講演に新たに申し込みたいか(Q5)

Q4 と Q5 の相関関係を図4に示す。

「現状(B 講演廃止のまま)で問題ない」が「B 講演に新たに申込みはしたくない」との回答者が半数以上を占めていることが分かる。しかし、構成比で比較してみると、「現状(B 講演廃止のまま)で問題ない」・「現状(B 講演廃止のまま)でやむを得ない」を選択した者では「B 講演に新たに申し込みたい」との回答が少ないのに対し、「秋の B 講演は復活させるべきである」と考える者では「B 講演に新たに申し込みたい」とする回答が多かった。

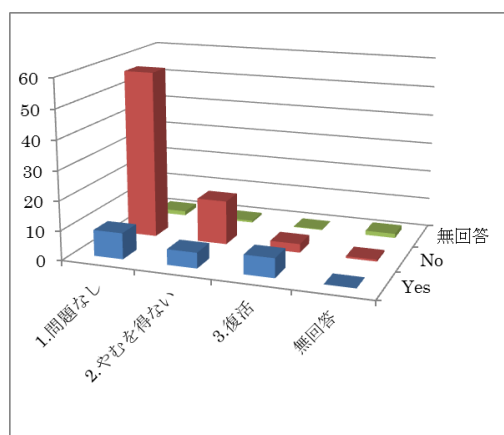


図4 「Q4) 秋の B 講演廃止に関して」と「Q5) B 講演に新たに申し込みたいか」の相関 (縦軸は%)

[資料]

Q4) 秋の B 講演廃止に関して、会員の皆様のご意見をお聞かせください。

項目	Q1 年齢(代)						Q2 所属					Q3 年数分布(年)					
	20	30	40	50	≥60	合計	産	官	学	他	合計	<1	1-5	5-10	10-20	≥20	合計
Q4																	
1.問題なし	33	89	94	69	34	319	151	19	137	12	319	17	71	65	69	97	319
2.やむを得ない	6	25	31	22	15	99	29	13	51	6	99	3	14	12	28	42	99
3.復活	4	14	12	10	6	46	12	2	29	3	46	1	5	5	16	19	46
無回答	1	3	3	2	1	10	5	0	5	0	10	2	1	1	2	4	10
合計	44	131	140	103	56	474	197	34	222	21	474	23	91	83	115	162	474

Q5) 仮に B 講演の機会が年 2 回になったら、あなたご自身で B 講演に新たに申し込みたい、あるいは申込みを増やしたいと思いませんか。

項目	Q1 年齢(代)						Q2 所属					Q3 年数分布(年)					
	20	30	40	50	≥60	合計	産	官	学	他	合計	<1	1-5	5-10	10-20	≥20	合計
Q5																	
1.Yes	14	34	22	21	7	98	15	6	75	2	98	4	16	22	30	26	98
2.No	29	92	113	78	46	358	172	27	140	19	358	17	72	59	82	128	358
無回答	1	5	5	4	3	18	10	1	7	0	18	2	3	2	3	8	18
合計	44	131	140	103	56	474	197	34	222	21	474	23	91	83	115	162	474

## 2.3 会員ウェブサービスと触媒誌の電子化について

触媒誌の購読状況についての質問(Q8)では、約半数が触媒 On The Webを活用している(ダウンロードし、電子機器あるいは紙に印刷して)と答えたものの、約 1/3 はウェブ化後に触媒誌を読まなくなったと回答した(図5)。

触媒 On The Web に期待すること(Q9)では、一括ダウンロードの長期化やバックナンバーの一括ダウンロードを望む声が多く、現状でよいとしたのは約 1/4 にとどまった。

会員ウェブサービスに期待すること(Q10)では、約半数が現状でよいと回答したが、メールマガジンから触媒誌各記事への直接リンクを望む声も約 4 割あった。

会員マイページの検索機能の利用(Q11-1)は、利用する/しないがほぼ二分され、個人情報の公開可否(Q11-2)も可否が二分された。

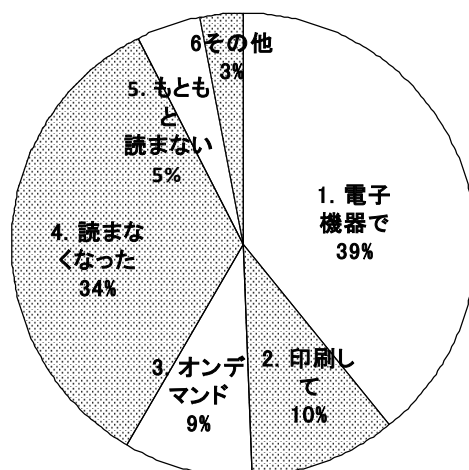


図5 「触媒誌」の購読状況(Q8)

### [設問別詳細]

Q8) あなたは現在「触媒誌」をどのようなスタイルで購読していますか。

回答結果は多い順に、「触媒 On The Web からダウンロードしてパソコンなどの電子機器で」:186名(回答総数474に占める割合:39%)、「ウェブ化されてから読まなくなった」:162名(34%)、「触媒 On The Web からダウンロードして紙に印刷して」:49名(10%)、「オンデマンド印刷物を購入して」:41名(9%)、「触媒誌はもともとあまり読まない」:22名(5%)、「その他」:14名(3%)であった。

年齢、所属、会員年数別の回答分布を表1に示す。

全回答者の 34%が「ウェブ化されてから読まなくなった」と回答したが、これを属性別に解析すると、年齢別では 60 代以上(45%)と 30 代(40%)、所属別ではその他(52%)、

会員年数別では 5-10 年未満(43%)、20 年以上(38%)が、全体よりもやや高い傾向を示した。ただし、年齢別の 60 代以上とそれ以外、あるいは、所属別のその他とそれ以外(産+官+学)の違いは、いずれも統計的に有意といえるレベルではなかった(母数が多ければ有意となった可能性はある)。

その他(14 名)では、団体会員に送付されているオンデマンド版を購読している(5 名;いずれも所属は「産」)のほか、「ウェブ化されてから読まなくなった」に近い回答が数件あった。

#### Q9) 触媒 On The Web に期待すること(複数回答可)

回答結果は多い順に、「バックナンバーの一括ダウンロード」:216 名(回答総数 474 に占める割合:46%)、「一括ダウンロード可能期間の長期化」:191 名(40%)、「現状でよい」:127 名(27%)、「オンデマンド印刷物購入方法の周知」:56 名(12%)、「その他」:43 名(9%)であった。

「その他」では、On The Web の操作性(検索機能など)の向上、Science Direct や J-STAGE への移行の提案があったほか、印刷物を希望する意見が数件あった。またオンデマンド印刷についても、1年分を1冊として安価にできないか、希望する号だけ購入できないか、などの意見があった。

Q8 の回答別に、Q9 の回答内容を見ると(表2)、Q8 で「オンデマンド版を購入」「もともとあまり読まない」と回答した会員は「現状でよい」とした割合が多く、「ダウンロードして電子機器で」「ダウンロードして紙に印刷して」「ウェブ化されてから読まなくなった」と回答した会員では、「バックナンバーの一括ダウンロード」「一括ダウンロード可能期間の長期化」を望む意見が多かった。

#### Q10) 会員ウェブサービスに期待すること(複数回答可)

回答結果は多い順に、「現状でよい」:230 名(回答総数 474 に対する割合:49%)、「メールマガジンから触媒誌各記事への直接リンク」:175 名(37%)、「メールマガジンの内容の充実」:74 名(16%)、「メールマガジンの発行回数増」:25 名(5%)、「その他」:14 名(3%)であった。

「その他」では、メールマガジンの改善(会誌発行の案内に巻号やアブストの記載を追加、会告の pdf 添付)、メール以外の周知方法(CSS, SNS など)の意見のほか、メールマガジンが多すぎるとの意見も少数あった。

Q8 の回答別に、Q10 の回答内容を見ると(表2)、Q8 で「ダウンロードして電子機器で」「オンデマンド版を購入」「もともとあまり読まない」と回答した会員は「現状でよい」とした割合が多く、「ダウンロードして紙に印刷して」「ウェブ化されてから読まなくなった」と回答した会員では、「各記事への直接リンク」を望む意見が多かった。

#### Q11-1) 会員マイページの会員情報検索機能を利用するか

回答結果は、「利用する」:238名(回答総数474に対する割合:49%)、「利用しない」:229名(48%)、無回答:7名で、ほぼ二分された。

#### Q11-2) 会員情報検索への個人情報(名前、メールアドレスと勤務先)の公開可否

回答結果は、「可」:229名(回答総数474に対する割合:48%)、「否」:236名(50%)、無回答:9名で、ほぼ二分された。Q11-1)で「利用する」と答えた238名中では「可」161名で「否」74名、「利用しない」と答えた229名中では「可」66名で「否」161名となり、利用有無と公開可否には相関があった。

「利用する」かつ「公開可」とした161名を属性別に見ると、産:56、官:12、学:81、他12であったのに対し、「利用しない」かつ「公開不可」とした161名では、産:81、官:9、学:66、他5であったため、学の属性の会員が産の属性の会員よりも会員情報検索サービスに積極的と言える。

#### Q12) 新しいサービスの希望

70件の記入があった。大別すると、触媒誌の冊子体の復活希望(約10件)、産学交流あるいは会員間の交流機会の拡充、会員向け情報サービス(触媒、反応、実験方法などのデータベース、触媒についてのwebテキスト、触媒関連研究室の全国マップ、海外を含む他機関の情報)の拡充などであった。また、討論会会場への託児所設置を望む意見が2件あった。



[資料]

表1 Q8の属性別の回答数と各属性内での百分比(カッコ内)

Q8「触媒誌」をどのようなスタイルで購読しているか		1.電子機器で	2. 紙に印刷	3. オンデマンド	4.読まなくなった	5. もともと読まない	6. その他	合計
Q1 年齢	20代	18 (40.9)	7 (15.9)	1 (2.3)	9 (20.5)	9 (20.5)	0 (0.0)	44
	30代	48 (36.6)	11 (8.4)	13 (9.9)	52 (39.7)	3 (2.3)	4 (3.1)	131
	40代	62 (44.3)	17 (12.1)	12 (8.6)	42 (30.0)	5 (3.6)	2 (1.4)	140
	50代	43 (41.7)	8 (7.8)	9 (8.7)	34 (33.0)	5 (4.9)	4 (3.9)	103
	60代	15 (26.8)	6 (10.7)	6 (10.7)	25 (44.6)	0 (0.0)	4 (7.1)	56
	合計	186 (39.2)	49 (10.3)	41 (8.6)	162 (34.2)	22 (4.6)	14 (3.0)	474
Q2 所属	産	91 (46.2)	25 (12.7)	9 (4.6)	63 (32.0)	3 (1.5)	6 (3.0)	197
	官	16 (47.1)	2 (5.9)	2 (5.9)	10 (29.4)	3 (8.8)	1 (2.9)	34
	学	76 (34.2)	20 (9.0)	28 (12.6)	78 (35.1)	14 (6.3)	6 (2.7)	222
	その他	3 (14.3)	2 (9.5)	2 (9.5)	11 (52.4)	2 (9.5)	1 (4.8)	21
	合計	186 (39.2)	49 (10.3)	41 (8.6)	162 (34.2)	22 (4.6)	14 (3.0)	474
Q3 年数分布	1年未満	12 (52.2)	3 (13.0)	1 (4.3)	3 (13.0)	4 (17.4)	0 (0.0)	23
	1-5年未満	41 (45.1)	12 (13.2)	7 (7.7)	21 (23.1)	7 (7.7)	3 (3.3)	91
	5-10年未満	32 (38.6)	6 (7.2)	5 (6.0)	36 (43.4)	3 (3.6)	1 (1.2)	83
	10-20年未満	44 (38.3)	15 (13.0)	11 (9.6)	40 (34.8)	4 (3.5)	1 (0.9)	115
	20年以上	57 (35.2)	13 (8.0)	17 (10.5)	62 (38.3)	4 (2.5)	9 (5.6)	162
	合計	186 (39.2)	49 (10.3)	41 (8.6)	162 (34.2)	22 (4.6)	14 (3.0)	474

表2 Q8の回答別に見た、Q9およびQ10の回答数

Q8「触媒誌」をどのようなスタイルで購読しているか		1.電子機器	2. 紙に印刷	3. オンデマンド	4.読まなくなった	5. もともと読まない	6. その他	合計
回答数		186	49	41	162	22	14	474
Q9 触媒誌について (複数回答可)	1.DL期間の長期化	88	27	8	59	7	2	191
	2.バックナンバー一括DL	93	27	13	70	7	6	216
	3.印刷物購入法周知	13	5	8	26	2	2	56
	4.現状でよい	54	10	17	29	12	5	127
Q10 メールマガジンについて (複数回答可)	1.発行回数増	11	2	1	9	2	0	25
	2.内容の充実	30	9	3	28	3	1	74
	3.直接リンク	53	24	12	74	7	5	175
	4.現状でよい	106	21	25	59	12	7	230

